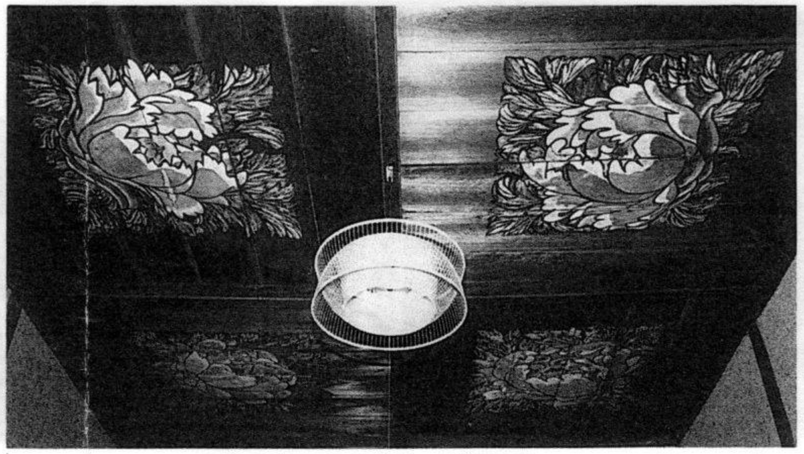
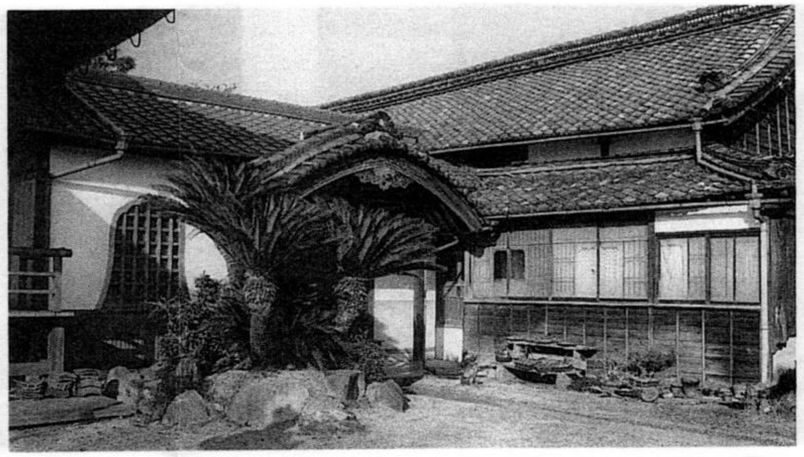
# 圓立寺の栞



書院の格天井　梅嶺筆　「牡丹の絵」



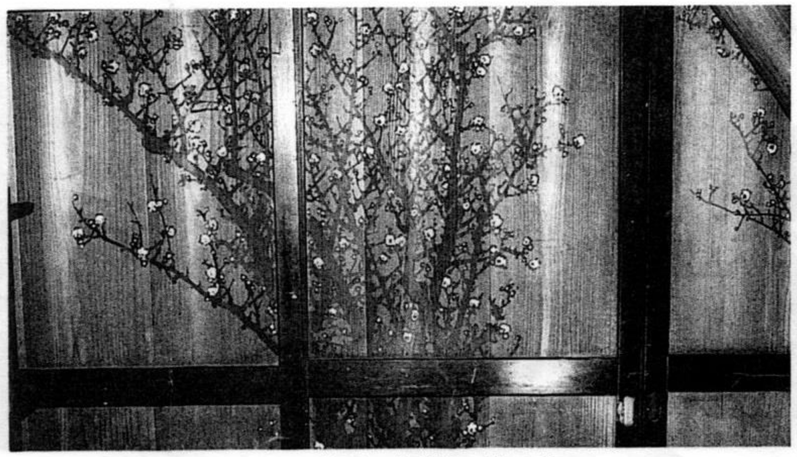
玄　　関

10代　大円
13代　秀頓　元縁一六、二、一三　寂一七〇三
15代　円測　宝歴一三、九、二〇　寂一七六三
16代　円山　寛政五、一、一　寂一七九三
火災にて本堂庫裡類焼
延享三（一七四六）一月十一日
17代　測定　文化四、二、一五　寂一八〇七
文化三、九　本堂再建一八〇六
18代　慈定　天保一四、二、一一　寂一八四三
19代　住導　明治一五、三、一一　寂一八八二
三重県安芸郡芸濃町椋本より入寺
20代　祐導　大正七、五、二一　寂一九一八
西尾市江原町浅井家より入寺
21代　円純　昭和四〇、六、二七　寂一九六五
西尾市熊味町願正寺より入寺
22代　純也　現在

## ●年中行事予定

一月　修正会、常例布教
二月　常例布教、町・婦人会主催報恩講
三月　常例布教、永代経法要
四月　常例布教
六月　常例布教
七月　謝恩講ご消息披露
八月　盆会（おみがき）、町・婦人会主催戦死者無縁者追弔会
九月　永代経法要
十月　常例布教
十一月　おみがき、報恩講、常例布教
十二月　常例布教、除夜会

庫裡の木戸　梅嶺筆　「牡丹と菊の絵」



庫裡の木戸　梅嶺筆　「梅の絵」


浄土真宗
本願寺派　三木山　圓　立　寺

岡崎市上三ツ木町北島2番地
〒444-02　TEL〈0564〉43－2706

# 圓立寺の歴史

●**由来**　その昔、清和天皇第一皇子貞純親王、八代の後胤源頼義より七代目の城野九郎助長（正治二年　一二〇〇）越後城野主の嫡男出家して元仁元年（一二二四）当国、碧海郡三ッ木里、真言宗三木山薬師寺に住し源性と名乗る、これが当寺の開基である。

第六世善性の時即ち応仁元年（一四六七）六月八日浄土真宗本願寺派に改宗寺号も善正寺と改めた。善性は永正六年（一五〇九）二月十三日八五才にて寂。

第十世大円、慶長十三年（一六〇八）十二月十四日真宗大谷派に改派し円立寺と改めた。

その後第十三世秀頓は天和三年（一六八三）十一月十三日真宗本願寺派に属し今日に至る。

第十六世円山の時近火類焼し、その際、宝物等多く離散す。延享三年（一七四六）一月十一日の事である。そして現在の本堂、庫裡は文化三年（一八〇六）の再建である。

尚本堂、書院などの天井や襖、各所に十九世住導（梅嶺と号す）の描いた牡丹、梅、孔雀等のみごとな絵がある。

●**寺宝**

本尊　阿弥陀如来（一体　天和三年　一六八三）十一月本山より受

聖徳太子像一体

六字名号（一幅　親鸞聖人筆）

親鸞聖人御影（一幅　正徳三年　一七一三）二月本山より受

蓮如上人御影（一幅、寛政八年　一七九六）五月七日本山より受

上宮太子尊像（一幅　正徳三年　一七一三）二月本山より受

七高僧書像（一幅　明和元年　一七六四）六月本山より受

祖師御影伝（四幅、住導師）本山より受

法然上人御影伝（四幅）

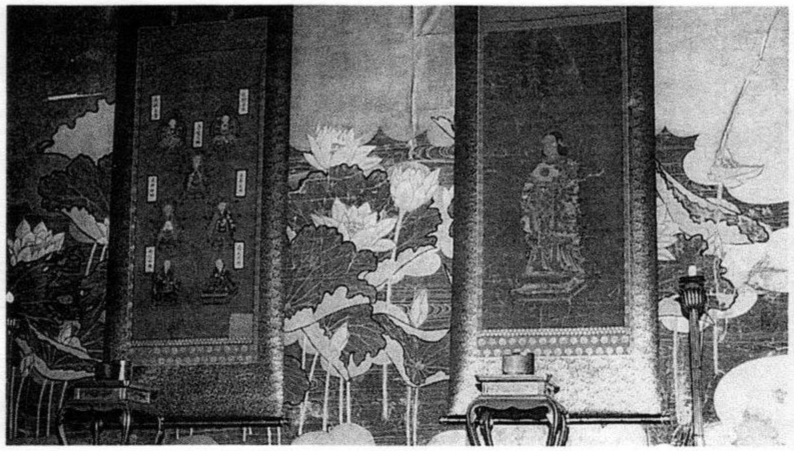
聖徳太子像縁起

（古来伝説に碧海郡明治村西端の蓮如池より出でしもので蓮如上人の秘蔵せられしものの由、明治四二年西端康順寺より御遷座あらせられる）

●**歴代住職**

開基開山　源性法師　一二二四

6代　善性　永正六、二、三　寂一五〇九



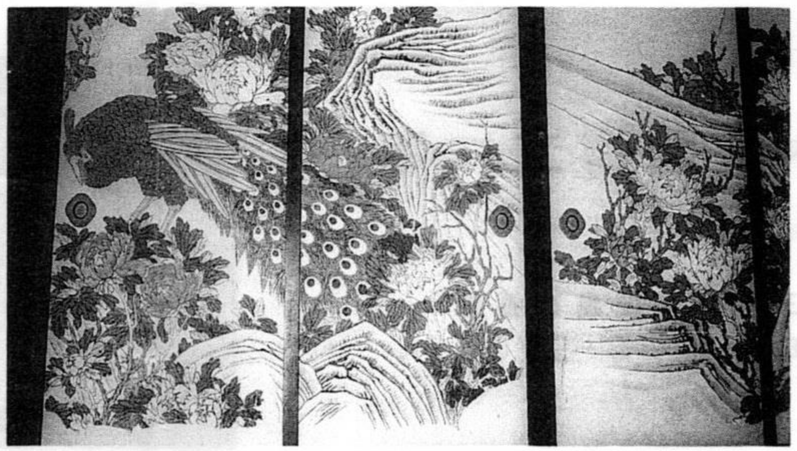
左余間の「蓮池の絵」　梅嶺筆

内　陣

全　景

右余間の唐紙「蘇鉄の絵」　梅嶺筆

左余間の襖「孔雀と牡丹の絵」　梅嶺筆



右余間の襖「孔雀と牡丹の絵」　梅嶺筆